

平成21年度大阪市会議員海外視察団

海外出張報告書



南京市人民代表大会常務委員会 黄煌 副主任を囲んで

4月9日(金) 北京市

(1)故宮博物院（北京市）〈文化施設〉

北京市には、万里の長城などの世界遺産が6つあり、故宮博物院もそのうちの1つにあたる。同博物院は明・清両王朝の宮殿建築と宮廷収蔵を基礎として設立した総合的な国立博物館であり、1961年に中華人民共和国国務院によって指定された全国初の「重点文物保護単位」の一つであり、1987年にはユネスコ世界遺産に認定された施設でもある。

当博物院のスケールの大きさには驚かされた。これまでに写真や映画などでは見ていたものの、実際に目の当たりにしてみると、人間の力でここまでできるのかと感じた。敷地面積は72万平方メートル、部屋数は9,999.5室という。しかし、部屋数は実際には9,000室はないらしい。台湾の故宮博物院は宝物で世界一を誇れば、北京の故宮博物院は建設物で世界一を誇るという。

入場料は決して安くは無く、地方からの観光客にとって負担は大きいと思われるが、それでも年間1,000万人近くが訪れているとのことである。入場料だけで管理費用等をまかなっており、公費投入を行っていないことに関しては本市としても参考にしたところである。



故宮博物院前にて



太和殿



歴史ある建築物

(2)在中国日本国大使館表敬訪問

・対応者

在中国日本国大使館 片山和之 公使、手塚 書記官

片山公使と面談し、「今の日中関係と中国事情」について、説明があった。

①中国の変化が早い。討議している間にも先々と進むので古くなってしまふケースがある。②中国が嫌いだという日本人が未だ多いのが課題。好むと好まざると問わず付き合って行かねばならない。2007年には香港を除いた日中貿易額が戦後初めて日米貿易額を上回った。現在においては、中国が日本の最大の貿易相手になっている。③中国は共産主義であり、国家体制が違う。今、民主化の波。脆弱さはあり、共産党もそれは分かっている。日中関係は良好であるが、2つの問題がある。まず、先日のギョウザ問題に象徴されるような食の問題。次に、東シナ海、大陸棚問題について、領土が云々されているが、中国側も日本に対し、軟弱だという意見がある。共同開発の交渉に

については2年間交渉できなかった。今も動いておらず、今後の課題である。日本の技術を中国で活用するべく政府も動いている。

【質問】

- ・ギョウザ問題と麻薬での死刑におけるこちらの報道について。
- ・麻薬での死刑は厳しすぎるが大使館の対応は。
- ・五輪後のバブルについて。
- ・反日と親日について実際はどうか。
- ・大阪への観光について。



太田 団長からのあいさつ



片山 公使より説明を受ける

4月10日(土) 天津市

(1)天津経済技術開発区〈企業誘致・産業振興施策〉

1984年12月、中国政府が批准した14の国家クラスの開発区の一つ。これまでに海外資本の投資企業が多数進出しており、電子通信、自動車、生物製薬など9大主導産業が形成されている。

2008年の国家レベルの開発における投資環境について中国商務省が発表した最新の総合評価結果によると、天津経済技術開発区は開発区の中で1位の地位を保持しており(12回連続1位)、投資環境のよさと安定的な発展は折り紙つきといえる。

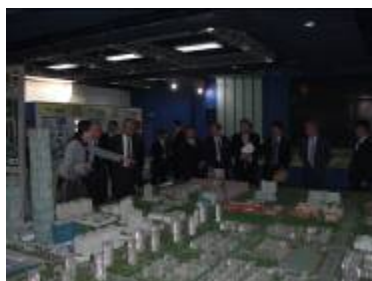
・対応者

天津経済技術開発区投資促進局汽車産業科 宋楊 副科長

天津経済技術開発区は通称TEDA(天津エコノミック・テクノロジカル・ディプロメント・エリアの略)という。

濱海新区開発のスケールの大きさは尋常ではない。企画面積が2,270平方キロメートルという。大阪市の10倍の面積であり、200万人が住むという。

当地区は、かつて塩田がありほったらかしの土地で、作物も育たず、利用価値がなかったところ、温家宝 首相の出身地ということで当地区に集中的に投資を行い、一大産業、学術、環境、緑化地区にしようという大プロジェクトである。スケールの大きさは想像を絶する。中国もこれまで上海市、深洲市へ産業誘致を行ってきたが、当地区の大きさは中国はおろか、世界でも例がないと思われる。2009年9月時点、4カ国・地域から4,700社の外国企業（日系は412社）が進出している。



宋楊 副科長より天津経済技術開発区の模型等を見ながら説明を受ける

(2)天津港（保税區）〈港湾施策〉

中国北方最大の総合的貿易港。南疆区、北疆区、東疆区に分かれ、東疆区に設けられている保税區は全国最大規模である。同区では改革・開放措置のモデルとして、洋山港（上海）と同様の優遇政策をもとに、通関、外貨管理、物流、貿易などさまざまな分野における規制緩和が先行・試験的に実施されている。

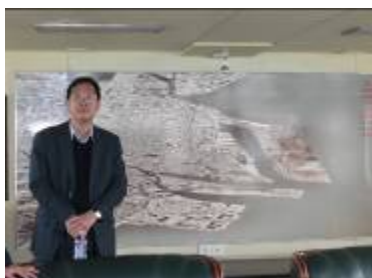
・対応者

天津港（集団）有限公司招商投資服務中心 郝運輝 副主任

天津市濱海新区の一面の東疆区に保税區がある。東疆区は30平方キロメートルというから、本市福島区（4.5平方キロメートル）の7倍はある。保税區はうち10平方キロメートルである。乗船し港内を回りながら説明を聴取した。

天津港は中国北方最大の港であり、歴史も非常に古い。航路ランク、最大停泊能力は25万トン級、水深は19.5メートルある。コンテナ専用のガントリークレーンは大阪港の約3倍の約70基ある。コンテナ取扱量は870万TEUで世

界第14位。大阪市と神戸を足しても足りないほどである。2009年度の輸送量は3.8億トン。貨物取扱量は世界第6位となっている。主な貨物はコンテナ、石炭、輸入石油、鉄鉱石などとなっている。天津港の中国内の総合的な取扱量は3位、1位は上海である。また、世界各地の港と友好提携を結んでおり、日本では神戸港、東京港になる。



港内をクルージングしながら、郝運輝 副主任より説明を受ける

(3)天津エコシティについて〈環境施策〉

中国とシンガポールが共同で天津市郊外に開発を進める、環境共生と省資源・資源循環効率化をコンセプトとする大規模環境都市プロジェクトで、2008年8月着手。敷地面積は約30ヘクタール。国際協力でエコシティが開発されるのは世界初。エコシティプロジェクトは、大気汚染や慢性的な交通渋滞が問題となっている中国において、①住民が故郷と呼べる、②仕事や教育の機会・十分な余暇を提供でき、③活力があり調和の取れた持続的な発展が可能な、④他の都市のモデルとなる、エコロジカルな都市の建設を行うものである。

・対応者

天津エコシティ管理委員会事務局外事管理科 張昆 科長

濱海新区の一面にエコシティ構想を立てた。塩田跡と遠浅の海を浚渫し、土砂を造成している。日本なら舞洲、夢洲などの埋め立てがあるが、干し上げ、利用するまで10年程度かかるが、エコシティは4年でやり遂げるといふ。ありとあらゆる部門でエコに取り組むとのことである。

事業の協力相手としてシンガポールと提携したというのが面白くない。なぜ日本でないのか。張昆 科長に聞いてみると、検討はされたいが、結果的には外されたとのことである。新幹線、自動車合弁にみられるように日

本に対して優越感をもちたいのか、国民に日本の技術が入るのを嫌がるのか。考えさせられる。ODAや日中友好という面からみれば日本全体が宿題を課せられる。海水の真水化、風力、パネル、地熱利用。緑化もすごい。細い木であるが沿道に何列もポプラを植えていた。工人らしい人々が多く植林をしていた。隙間なく何列も植えているところがおもしろい。4年後に果たしてエコシティになっているか確かめたいものである。6年前に会派視察で当地区を視察した団員によると、当プロジェクトは実現する可能性があると思わされたとのことである。当時、都心から当地区間の景色は、一面が塩田跡で何もなく、あったのは、ロシアの航空母艦のキエフかミンスクかの軍艦のみであった。



張昆 科長より説明を受ける

4月11日(日) 天津市

(1)天津計画企画展示館〈まちづくり施策〉

天津におけるまちづくり計画について、過去・現在・未来の天津市のすがたを模型等を展示することにより、市民にわかりやすく紹介している。

・対応者

天津計画企画展示館 諸銘 館長、馬卉氏

当館での展示と説明は昨日の視察と同様で重複した。当初に当館に寄るほうがよいと思われる。

2階から、天津市の将来図のパノラマ、ジオグラフィが一目で見える。ど派手でキンキラ金で「ここまでやるか」という感じである。

当市の計画がまともに完成するとなればいろいろ考えさせられる。1つは理想なのかもしれない。2つは環境はどうなるのか。車の多さ、ゴミ、電力の消費が心配である。3つはバブルがはじけたらどうなるのか。街が墓場とにならないか。4つはここまで大きいことは「いいことだ」とはいえない。人間は人間らしく生活するものという原点に戻るのではなかろうか。田舎、自然というものを求めて、ゆっくりと人生を送ることがあるように思われる。



天津市の将来像となる模型を見ながら馬弁氏より説明を受ける

(2)天津国際展示会館

現在建設中であり、6月には完成予定だという。広さは6万平方メートル、建設費用は約3億元である。

完成後は、天津市人民政府、中華全国帰国華僑連合会、中国商業連合会、中国外商投資企業協会、中国対外経済貿易企業協会の主催による第17回となる中国・天津投資商談会（6月28日～7月2日開催）が予定されている。出展費用は、1区画9平方メートルのブースで、15,000元。

期間中には、天津市政府主催レセプション、各種投資合作プロジェクトの調印式、各種会議やフォーラム・シンポジウムや商談会、ビジネス・観光・文化などのイベントが予定されている。

なお、天津市商務委員会より、「大規模な展示会であり、BPC提携を結んでいる大阪市からも、是非出展してほしい。当市商務委員会では、両市間の交流が一層深まることを望んでいる。現在、商務委員会では、無料ブースの設定を検討中であり、詳細が決定次第、改めてお知らせしたい。」との提案があった。



天津国際展示会館外観

4月12日(月) 天津市

(1)天津市人民代表大会表敬訪問

・対応者

天津市人民代表大会常務委員会 劉勝玉 主任(議長)
天津市人民代表大会常務委員会 王世新 秘書長
天津市人民代表大会外事弁公室 王樹華 副主任

敷地は元競馬場であったのでとても広い。一番奥に迎賓館あり。大応接間に通され、懇談を行った。懇談後、記念品交換、記念写真の撮影を行い、昼食会に招かれた。

劉主任によると、今一番の悩みは、就労について、農民工の出稼ぎが多く、大学卒でも仕事があるということではない。医療について、高齢化と保険制度の導入で混乱がある。住宅について、高すぎて一般人には買えない状態。2000年に天津市に赴任したが、この10年で土地が10倍になったとのことである。

大阪市は、生活保護とホームレスが問題だと伝えたところ、当市もそれに似たことがあるという。今、人口が1,200万人だが、濱海新区が完成すれば1,400万人になるという。

工事中のプロジェクトは5,000件あまりあり、インフラ整備に昨年度で7兆円を投入している。污水対策では85%の污水を処理できる。エアバスとの共同事業も進めている。日本の新幹線に当たる高速鉄道は北京⇄天津間を時速300キロメートルで結ぶ。現在、広州などへの延伸工事を行っている。

なぜこんなに計画が立派で大きく、また上手に進捗するのかの問いに、①責任制で割り振りにしている。②国家がバックアップしている。温家宝首相が地方出身である。③民間会社の出資。④土地売却が順調。埋め立ての資金は売却の10分の1で済むとのこと。他にも各団員より、以下の質問があった。

【質問】

- ・エコシティの土地はどこが責任を持つのか。
- ・バス・地下鉄は65才以上無料であるか。
- ・高齢化問題の発生。年齢層が上昇、老人ホーム等が必要になる。
- ・大阪－天津間で航空機路線の開設を努力しようと発言したのに対し、フェリーがある(神戸－天津間)と言われたのには驚いた。

天津市と大阪市とは多くの友情がある。なぜなら、胡耀邦が市民300人を招いている歴史もある。劉主任自身、北京市より7回、天津市主任で1回、日本へ寄せていただいた。日中友好を長く続けたいと発言された。

昼食後、要職の方々は、ドイツ製オーディオにて帰られた。団員のうち何名かは、日本のトヨタ車に乗っていただきたいと思ったはずである。



懇談、記念品交換を行い劉勝玉 主任を囲んでの記念撮影を行った

(2)天津市商務委員会表敬訪問

・対応者

天津市商務委員会天津市人民政府外商投資弁公室 楊兵 副主任
 天津市商務委員会外資綜合所 穆生軍 所長
 天津市商務委員会外資綜合所 張新浩

楊 副主任は大阪の方とは初めてお会いするそうである。

天津市は一昨日視察した濱海新区等で発展中である。当市のGDPは昨年度（前年比）16%アップした。今年はそれ以上の伸びが期待される。世界の注目を浴びていて、新エネルギー、航空、自動車等々で伸びがすさまじい。

当市はインフラ整備に5,000億元（日本円で7.5兆円）の投資を行った。電柱は地中化を行い、下水、道路、鉄道、高速道、新幹線に力を入れてきた。引き続き企業誘致、投資拡大、サービスに努める。当市はトヨタの合弁を行い、自動車産業に期待している。

太田 団長より、天津エコシティについて、事業協力都市として、シンガポールだけでなく、日本、大阪をよろしくと伝え、特に、上海万博では、大阪市は環境でのパビリオンを建設、出展していくと伝える。

懇談後、記念品交換を行った。



天津市商務委員会内会議室にて楊兵 副主任と懇談、記念品交換を行った